

瀬戸内サイクリングロードの整備

広島県 土木局 道路整備課

1. 「瀬戸内 海の道」構想

この構想は瀬戸内海地域のブランド力を高め、産業の活性化及び交流人口の増加によって、豊かな地域社会の実現を目指すものです。

現在、これまで実施した19本の実証事業から抽出された課題等を踏まえ、瀬戸内



【デザインについて】

マークのシンボルであるドットは、瀬戸内海に穏やかに浮かぶ島々の多島美を表現しています。

ドットが連なって並ぶイメージに、古くからの歴史のつながりや、瀬戸内のすばらしい自然の財産を、共に守り未来につなげていきたいという思いが込められています。

ブルーからグリーン、そしてイエローへ変化するカラーは、瀬戸内海の四季の変化を、親しまれやすい爽やかなカラーで表現しています

内ブランド形成に向けたプロジェクトを展開するとともに、民間企業、地域活動団体等とのパートナーシップのもと、この構想関連プロジェクト等に継続的に取り組む仕組みづくりについても、検討を進めています。

この取り組みの一つとして「瀬戸内サイクリングロード」事業があり、日本でも有数のサイクリングコースであるしまなみ海道等を、他県の観光資源とも組み合わせ、瀬戸内海を一大サイクリングエリアに発展させるための取組を進めています。

2. 瀬戸内サイクリングロード

(1) 現状と課題

- 個々の地域のサイクリング関連の取組みの面的な連携が不十分である
- サイクリング関連情報がバラバラでわかりづらく、広く認知されていない
- ハード面、ソフト面ともに、整備が遅れている

(2) 今後の方向性

- 誰もが楽しめる様々なサイクリングルートの設定

多島美などの景観、グルメなど、季節や時期により様々な表情をみせる瀬戸内海は、初級者から上級者まで幅広いニーズに応えるルート設定が可能である。船（クルージング）とサイクリング、タンデム自転車によるサイクリングなど、他地域にはない瀬戸内海地域の特徴を前面に出し、一元的な情報発信を行うことが必要である。

- 広域的な受け入れ機能の充実

案内標示やコースの整備等のハード整備にあたっては、関係県・市町が共通認識に基づく取組を行うことが重要である。ハード整備以外にも、共通のレンタルシステム、緊急時の支援体制、交通対策など、ソフト面の充実も求められ、行政・関係団体・交通事業者、地元住民、サイクリング愛好者などが一体となった取組みが求められている。

○ サイクルイベントの実施

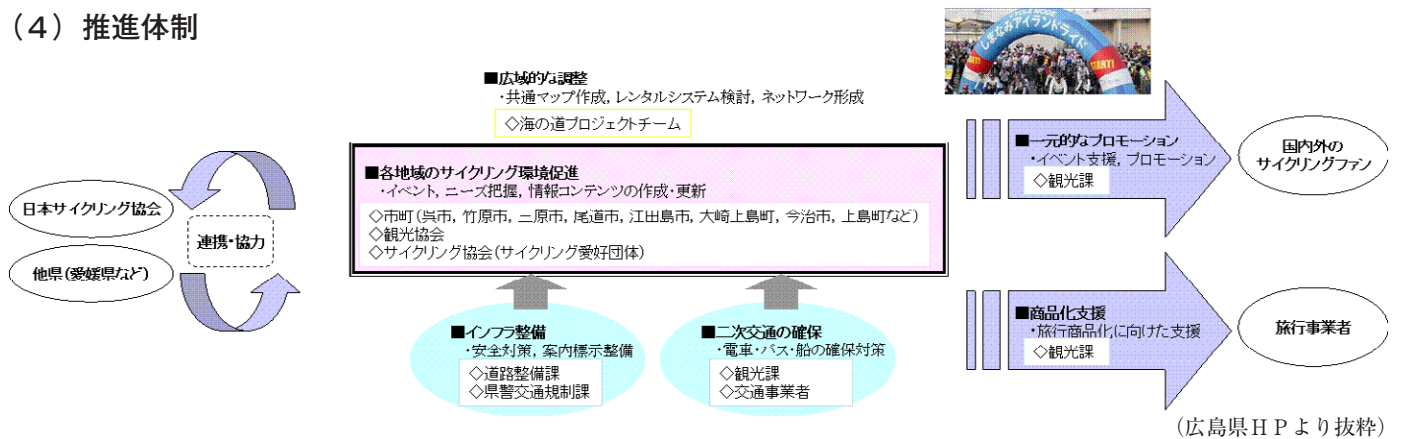
しまなみアイランドライド、とびしまオレンジライド等の大規模イベントは1,000名以上の参加者があり、一定の経済効果が期待できる。また、サイクリングを始めるきっかけとなり、サイクリング人口の拡大にもつながると考えられる。

(3) 目指す姿

- 誰もが楽しめる様々なサイクリングルートを広域的に展開
- 世界に誇るサイクリングエリアとしてのブランド形成・集客力の倍増
- サイクルイベントの開催等によりサイクリング人口の拡大



(4) 推進体制

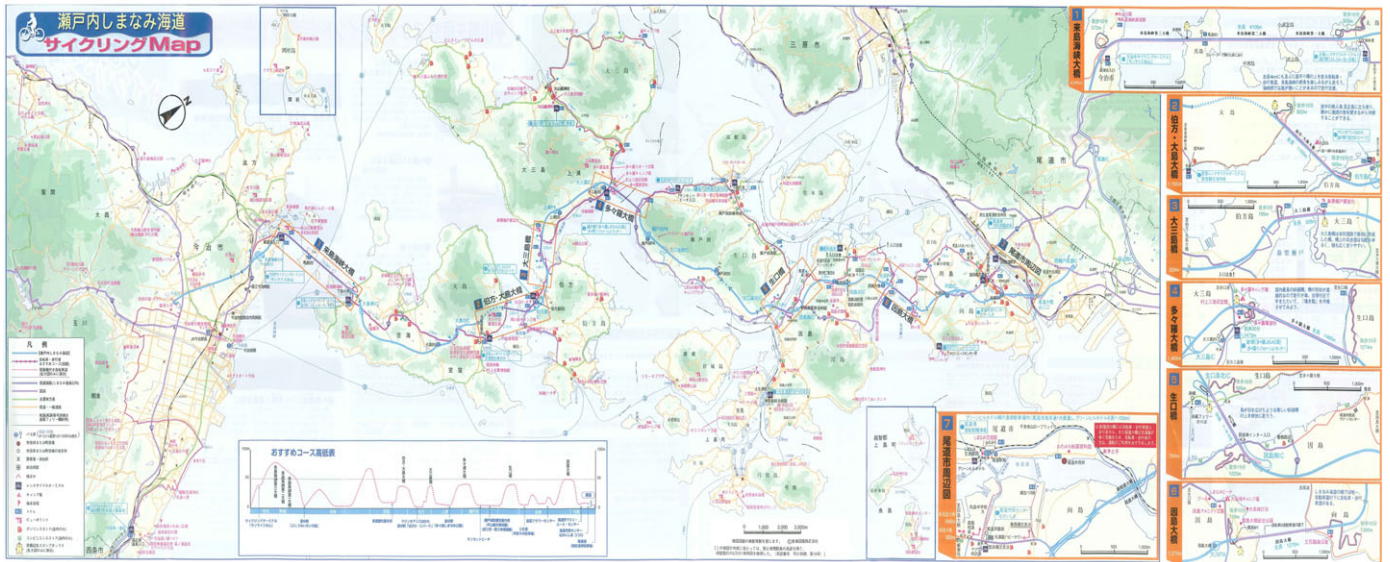


3. 道路管理者の取り組み

【しまなみ海道 サイクリングロードについて】

尾道と今治を結ぶ西瀬戸自動車道（愛称：瀬戸内しまなみ海道）は、全長約60kmの自動車専用道路ですが、橋の部分のみ原付及び自転車歩行者道が併設されています。

この、自転車歩行者道を利用することで、唯一、本区間だけが、自転車で瀬戸内海を渡ることが可能なルートとなっており、沿線住民の通勤・通学のみならず、近年、観光利用にも力を入れているところです。



瀬戸内しまなみ海道振興協議会作成

(1) 広島県側のサイクリングロードの現況

- ・平成 10 年 8 月に広島県や尾道市などから構成された「広島県しまなみ海道'99 イベント協会」などが中心となり、初心者でも楽しめるルートとして設定されました。
- ・ルートは、県が管理する国道・県道、尾道市が管理する市道、本州四国連絡高速道路公社の管理する西瀬戸自動車道の渡海橋から構成されています。県では主に、橋梁の取り付け部や休憩所などの整備を行っています。



表 1 サイクリングロード延長内訳

道路種別	延長 (km)
国道・県道	24
市道	4
県道 (自転車歩行者専用道)	5
本州四国連絡道路 (橋梁部)	5
合計	38



(2) 観光インフラ整備事業実施内容

広島県では、平成22年10月よりしまなみ海道サイクリングロード推奨ルート上の管理道路で、車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと距離標の路面標示整備を進めてきました。推奨ルート上の市道においても尾道市により整備が進められ、平成22年度末までに全ての整備が完了しました。



整備状況（向島）

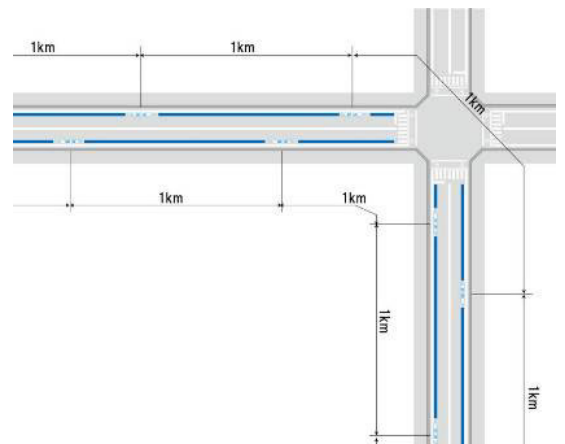


整備状況（生口島）

1) ブルーラインの目的

ブルーのラインは、車道左端に幅20cmで設置しております。設置目的は次のとおりです。

- サイクリング推奨ルートを明示し、多くの方に分かりやすい案内を行う。
- 車道を走行する自転車利用者に対し、左側走行の原則に対する注意を喚起する。
- 自動車運転者に対して、自転車への注意を喚起する。



2) 距離標示（方向標示）について

ラインと併せ路面に整備した距離標示は、推奨ルート上における尾道駅～今治市サイクリングターミナル「サンライズ糸山」までの距離を示しています。

1kmおきに設置しておりますので、走行の目安としてお役立てください。また、推奨ルート以外から来られた人へも方向を示すため、主要交差点では距離表示のない方向標示も設置しております。



(3) 今後の取り組み

本県の島嶼部では、瀬戸内の多島美と大規模渡海橋の人工美が相まって、世界に誇れる景観を形成しています。近年、こうした景観を楽しみながら瀬戸内海を渡るサイクリング大会が開催されており、海外を含め多くのサイクリスト参加を得ているところです。

今回、しまなみ海道サイクリングロードについて整備を行いました。この取組は、道路管理者として、

既存施設をより利用しやすくすることを目的として、広島県警などと協議を行いながら、尾道市などと連携して実施したものであり、今後とも、利用者ニーズをアンケートなどで確認しながら、より良いサイクリングロードとなるよう努めて参りたいと考えています。

また、瀬戸内サイクリングロードの目指すべき姿に向け、他のルートについても沿線市町と連携して、順次整備を進め、世界に誇れる瀬戸内サイクリングロードとなるよう努めて参ります。



(とびしま海道サイクリング大会)



(しまなみ海道案内板)